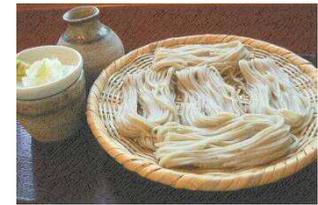
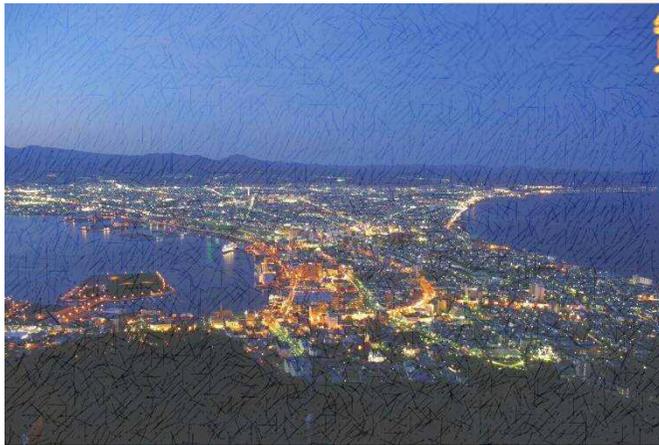




東日本連携広域周遊ルート 策定事業（案）



東日本連携広域周遊ルートの検討

【目的】 地域資源の相互活用による相乗的な地域活性化の促進・交流人口の拡大

連携各市町の観光面での資源を活用し、東日本の各地を国内外の旅行者が回遊する新たな東日本連携広域周遊ルートの確立が必要。

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック(以下「オリ・パラ」という。)を第1の目標年とする。
- ・「東日本の玄関口」である大宮駅を拠点に連携各市町への観光客の誘客と受入体制の充実を図る。



【東日本連携広域周遊ルート研究会の設立】

- ・連携都市で実施事業の情報交換や広域連携の成功事例の研究 等

【最終目標】 東日本連携広域周遊ルート協議会の設立及びルートの策定

- ・協議会:交通、宿泊、旅行、飲食等の事業者を中心とし、観光客誘致に向けた取組を連携して実施する主体を想定
- ・地域活性化のため自ら動き出して地域を盛り上げようとする民間事業者の活力を引き出すことで、地域における消費拡大と魅力あるまちづくりを目指す

東日本連携広域周遊ルート研究会

【取組事項】

1. 連携各市町で構成し、必要に応じて民間事業者に意見聴取等を実施
2. オリ・パラ観戦客を連携各市町で受け入れるための要望事項等の協議
3. 連携各市町で既に実施している広域連携事業の情報交換や成功事例を研究 等

【短期的目標】 交通事業者への要望

- ・オリ・パラでは、国内外から多くの観光客が見込まれる。特に外国人観光客は**延べ約80万人が想定**されており、現在の交通体系では東京周辺に集中(対流)せざるを得ない。
- ・東京周辺だけでは、観光客を受け入れることは難しいと考えられることから、**地方への誘客を図る好機**となる。(羽田空港・成田空港以外の地方空港も活用される見込み)
- ・欧米の放送時間に合わせた競技プログラムとするため、深夜帯まで競技開催となる見込み。そのため、競技観戦前後の観光需要に対応し、東京から、さいたま市のみならず、連携各市町への誘客を図り、受入態勢を検討する。

◆ 要望事項(案)

- (1)オリ・パラに向けた新幹線の臨時便や大宮始発便の新設
- (2)停車駅の拡大や運行時間等に配慮した新幹線の増便 等



東日本連携広域周遊ルート研究会

【中長期的目標】 研究会における東日本広域連携周遊ルートの検討と課題の解決

◆テーマに基づく検討

- ・連携各市町で実施している事業の情報交換
- ・既存の広域連携の成功事例の研究
- ・伝統産業等、地域資源を活用した教育旅行(修学旅行)等の誘致
- ・観光や伝統文化、産業等の効果的なPR 等

◆検討課程で得られる課題の整理

- ・インバウンド需要の拡大が期待されるオリ・パラ時の多様なツアーに対応する地元事業者等への協力依頼及び受入体制の充実
- ・リピーター獲得のための取組 等

◆課題の解決によりレガシーの創出

- ・東京周辺から連携各市町への誘客導線の創出
- ・地域活性化のため自ら動き出して地域を盛り上げようとする民間事業者の活力を引き出す

